

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定

第2回策定委員会 議事録

日時) 2023年2月7日(火) 15時~17時

出席者) 策定委員 長澤委員長 齋藤副委員長 谷口委員 相蘇委員 笠原委員 中越委員 江村委員
俣野委員 高野委員 宮本委員 佐藤委員

事務局 北平新校開設担当課長、若野主事、野島、島田、根岸(記録)

欠席者) 紅林委員

資料) 次第、第1回策定委員会議事録案(資料1)、
清瀬小学校教職員アンケート結果概要(資料2)、
第1回市民ワークショップ発表まとめ(資料3)、ワークショップ付箋の記録(資料4)、
新しい学校施設づくりの目標グループワークの進め方(資料5)、参考事例リスト(資料6)、
特別講演会YouTube情報(資料7)、第2回市民ワークショップのお知らせ(資料8)
敷地周辺環境(参考資料1)、清瀬小学校 校内写真(参考資料2)

1. 委員の紹介(前回欠席委員) *事務局より紹介

2. 前回議事録の確認

- ・議事録に誤りがあった場合は、後日修正とする。

3. 議題

(1) 教職員アンケート結果報告

*概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・報告を受けてご意見・ご感想はありますか。

委員

- ・まとめ資料は写真等も載っていてわかりやすいが、人が写っていない写真であり、広さが伝わりにくいの
で補足する。
- ・教室前の廊下は狭く、ある期間には廊下に荷物を置くこともある。ロッカーも昔のサイズであり、ランド
セルを入れるとっぱいで、ものを置く場所がないのが課題である。
- ・職員室は机間が狭く、すれ違うことが難しい。外部の指導者や時間講師の方々が使う机も職員室内に用意
しており、机ばかりで職員室が手狭である。配線も多く、ガムテープで固定しているが、剥がれたり躓い
たりするため危ない。そのような状況を踏まえ、働きやすい環境を用意したいという教職員の希望につな
がっている。
- ・新型コロナなどの感染症対策として、教室の窓を開放しているが、廊下側のドアに窓がなく、ドア自体を
開放している。中には寒さで上着を着て授業を受けている児童もいる。

- ・補足は以上だが、わかる範囲で質問があればお答えしたい。

長澤委員長

- ・現状の施設の課題についてはご指摘いただいた内容がアンケート回答にもみられる。更に、未来に向けた施設環境の在り方を先生方に伺いながら、委員会でも検討していければと思う。

(2) 第1回清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップの報告

*概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・私も参加したが、参加した方々は清瀬の街が大好きで、清瀬市の良さを如何に活かし、どのように伝えていくかという観点で意見交換されていたように思う。それらの考えは学校施設づくりのベースとなるだろう。
- ・学校教育の場としてだけでなく、地域活動の場や避難所の役割についても意見が出された。
- ・各チームの名前には思いが込められている。

委員

- ・当日は数名の職員も参加した。様々な立場の人が混じって意見交換をした。
- ・本校のことを多くの方と意見交換できたことは、とてもよい機会であった。こんな視点の意見もあるんだという側面もあった。地域や卒業生としての視点、使い手としての視点があった。
- ・その中にトイレの課題があった。新しい施設として改善していくことに加え、日常的に環境を整えていくことが必要だと感じている。
- ・清瀬市のモデルとなるよう意見が出されたことが印象的だった。

(3) 現在の施設環境について

*資料配布のみ

(4) グループワーク：新しい学校施設づくりの目標

発表内容を以下に示す。

Aグループ

- ・タブレットの持ち帰りが大変なので課題である。(タブレットを使った)授業は楽しいと子どもに聞いているが、更に活用した活動があるとよい。
- ・少人数授業を増やしてほしい。
- ・DX化できるとよい。
- ・トイレをきれいにしたい。
- ・廊下を広くしたい。
- ・地域向けのセミナー開催等を行う事で保護者の参加を促すことができるとよい。世代に応じたテーマがあると参加者が多くなりそうだ。学校に入りやすくなるソフトの取り組みがあるとよい。

- ・PTAも小中学校で連携できるとよい。活動内容が違うこともあり、今は連携できておらず、学校支援本部がサポートしてくれている。従来の大変なPTA活動のイメージを変えて、多くの保護者参加を促したい。
- ・リラックスできる場所をつくってほしい。（おしゃべり等ができる居場所、カフェ的なスペースの設置など）
- ・メンテナンスのしやすい施設にできるとよい。
- ・環境問題を学べる施設になるとよい。
- ・電力の自家発電があるとよい。
- ・児童の登下校時の見守りシステム「ついたもん」については市全体で対応を要望したい。
- ・入館管理がしやすいようにカードをかざして開閉できるようなシステムの導入が検討できるとよい。
- ・中学校の学校支援本部で図書室を改装したが、中学校も環境を整えられるとよい。

Bグループ

- ・学校は教育の場であるということを一番に考えることが大切である。
- ・将来、50年後、100年後で教育のあり方や考えも変わるだろう。その時々に対応できるようなフレキシブルに変化できる施設が求められる。
- ・清瀬小学校の整備が今後の学校づくりの基盤（フラッグシップ）となるよう、市役所の景観と合わせて整備できるとよい。
- ・例えば、外構フェンスがなく、校舎自体がフェンスを兼ねるようなづくりもよさそうだ。
- ・その他の細かな内容も議論されたがホワイトボードに記載している。

長澤委員長

- ・学校は、子どもの学びの場であると共に、大人が学び続ける場でもあるとの意見もあった。大人が学び続ける姿は子に伝わっていく。そのような場として捉え直すことが大切である。
- ・地域向けのセミナー等のイベントの企画という意見もあったが、普段から学校に大人も来れる場づくりが目標になってくるのではないか。
- ・子どもの姿がいつも見えている環境で、地域全体で子どもを育てる場が学校である。学校が集まりの場になることで生まれる可能性が考えられるとよい。
- ・あるコミュニティスクールでは、ダンス・絵画・地域の遊び等、それぞれ教えられる地域の人が学校教育に参加することで、教える側も教えられる側もよい経験ができています。
- ・ある学校では、避難施設として指定されていなかったが、大規模災害で避難が必要となった時に向かったのは学校だった。地域と共に体制を整えて避難所の運営をした。それは、日常的な地域と学校の連携があってこそ可能だったと言えるだろう。日常的な連携が地域づくりにも繋がる。
- ・外構のフェンスについて意見があったが、庁舎と向かい合う校舎は、市の顔づくりともいえる。清瀬市の新しい顔をつくる、清瀬のへそをつくるということである。学校側にもよい歩行空間を設けるなど、市役所と一体となったよい街路空間にしていくことも考えられる。

- ・社会が大きく変化する中、これから100年使い続けられる施設を目指し、新しい環境に柔軟に対応できる施設づくりができるとよい。
- ・学校づくりのフラグシップとして、景観・建物等の具体的なアイデアも出されていた。料理の仕方は様々あるので、引き続き意見を出し合いながら検討を進めていきたい。

(5) 参考事例の紹介（視察候補）

- ・策定委員会で、先進事例の視察を計画している。今年の5月頃を予定しているが、資料6は、その候補をピックアップした資料としている。
- ・視察は受け入れ先の自治体に日程等を確認する必要があるため、事務局にて検討・調整していく。

長澤委員長

- ・先方の予定も確認して、早めに告知するように事務局にお願いしたい。
- ・視察してみたいという学校があれば、事務局に伝えてほしい。

4. 情報共有

- ・特別講演会のyoutube公開のお知らせ
- ・第2回市民ワークショップの開催のお知らせ

5. 次回の日程

- ・後日、調整を行う。

以上